

事務室のページ

池本美和

2月の節分も終え季節は春を迎えました。今年の節分は土曜日ということもあり、前日の金曜は鬼は来るはずはないと担任が鬼となり節分ごっこをしていたところに本当の鬼があらわれたのでした！（今年の鬼は地域の方々と職員です）驚き逃げる子、中でも豆を鬼に投げる子や手紙を渡す子、頭を撫でられる子などその間の子どもたちは激しく感情が入り混じっていました。そして鬼が帰って少し落ち着いてきたそうぐみの子どもたちに自分のお腹の中の鬼は持っていったらどうか聞きました。自分のことを客観的にみえるようになってくるそうぐみの子どもたち。自分の中で苦手と感ずることや難しいと思うことを自分自身だけでなく友だちも知っておいてほしい。いいところも苦手なところもひっくるめてこれから何かあった時には声を掛け合ってほしいという思いがありました。すると自分のお腹の中にある鬼を書いた手紙を渡したと教えてくれました。半年前は自分のやりたいことや自分中心に考えることが多かった子どもたちも、その話をしている間、友だち一人ひとりの声を聞こうとする姿や、友だちの苦手なことは知ってた！という声も聞いて安心しました。

もうすぐ小学校になるそうぐみの子どもたち。卒園を祝う会の初めての予行ではめっちゃくちゃ緊張していましたが、自分のことを知ってくれている友だちがこれだけいるので何かあった時は頼って、安心して小学校に行ってほしいなと思います。



事務室 一森すすえ

この3月に、16人の子どもたちがつばさを巣立っていきます。振り返ってみると、かれこれ12年目になる私のつばさ生活のなかでも、自己主張が控えめなクラスだったなと思います。印象的だったのは運動会。BGM 関係を担当している私は、子どもたちの日々やりたいことが変わるリクエストに振り回されるのが毎年恒例なのですが、今年はそうしたこともほとんどなく、スムーズに当日を迎えることができました。例年と違う子どもたちの様子に、戸惑いもありました。けれど、友達が困っていることをみんなで考えたり、ポジティブな声かけをしたり、こうしてみたら？とアイデアを話したり、ひとりの子を尊重したりと、みんなで心地の良い雰囲気をつくらうとする子たちがたくさんいて、優しい集団でした。アトムやつばさは自分の思いを表現することを大切にしています。ですが、主張する人ばかりでは集団は成り立ちません。表現することだけでなく、相手を認めることや、尊重することも彼らの財産にしてもらえたらとてもうれしいです。そして私たち大人も、そうありたいと思います。

さいごに、そうぐみ保護者のみなさんへ。私たち職員を支え、ともに子どもたちを育ててくれてありがとうございました。子どもたちには「いつでもつばさに遊びに来ていいからね」と声をかけるのですが、大人もいつでもつばさに来てください。新しく始まる生活のなかで、うれしいこともしんどいこともたくさんあると思います。ですがどんなときも、みなさんの子育て仲間であり、永遠の味方がここにいることをどうか忘れないでください。いつになっても、話に来てくださるのを楽しみにしています。また会いましょう。